

きのくに自主防災

第9号（平成22年7月号）

<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局

（県庁総合防災課内）

〒640-8585和歌山市小松原通1-1

TEL：073-441-2271



（みんなで学ぶ防災マップ発表の状況）

和歌浦地区防災会が和歌山県知事表彰を受賞しました！

平成22年5月26日（水）、ホテルアバローム紀の国で平成22年 和歌山県知事表彰式が開催され、和歌浦地区防災会が知事表彰を受賞しました。

これまでの和歌浦地区防災会の功績と活動状況を紹介します。



（表彰式の様子）

1. これまでの活動内容

和歌浦地区防災会は、平成11年8月に結成、平成17年2月に組織再編され、「自分たちの町は、自分たちで守る」という意識のもとで活動している自主防災会です。

平常時から住民の防災意識を高めるための取り組みとして、地震への備えを記載した冊子「わが家の安心防災手帳」や「和歌浦地区安心安全マップ」を防災会主体で作成し、各戸へ配布するとともに、地区防災会の活動、防災に関する情報を伝える防災広報誌「防災わかうら」を年2回発行し、住民個々の防災意識の高揚を図っています。

また、災害発生時に地域住民が協力して避難・救出・救護等を円滑に行うため、「災害時助け合い制度」を実施し、住民同士が助け合える仕組み

作りを展開しています。

平成18年には、行政と連携して、地震災害を想定した実際の動きを確認するため、津波避難訓練及び避難所運営体験訓練を実施しました。

これらの和歌浦地区防災会の活動内容は、平成19年度防災まちづくり大賞の優良事例として評価されました。

また、平成21年には防災会が中心となって訓練の企画立案を行い、和歌浦地区自主防災訓練を実施しました。

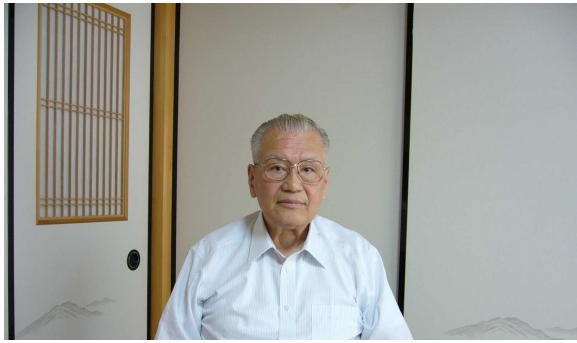
2. 今後の活動方針

和歌浦地区では昨年11月11日に大雨（和歌山市で時間雨量122.5mm）による浸水被害を受けました。このときは、情報伝達等の課題が残りました。

今年度はこれまで行ってきた広報誌の発行や「災害時助け合い制度」の更新を継続するほか、地区防災訓練では情報伝達・避難誘導訓練を計画しています。

今後は、子供から高齢者まで多くの住民が参加し、家庭で防災のことを考えてもらう活動を行い、また、防災活動を通じて地域のつながりを重視したまちづくりを進めていきたいと考えています。

原稿提供：和歌浦地区防災会 事業局長 唐門 武 様



昭和の南海地震の体験者である海南市藤白在住川下 崇さん（82歳）にインタビューを行い、体験談としてまとめましたので紹介します。過去に地震や津波を実際に体験された貴重な体験談です。

~~~~~

### 1. 地震がきたとき

私は当時18歳で被災体験をした一人であり、仕事場は全流失等、大被害を受けた。

昭和21年12月21日午前4時すぎに発生した南海地震を忘れることはできない。

立って歩くことは出来ず、石垣に寄り添って立つのがやっとという状況だった。一旦は寝間に入るが、母親が少し早い朝食を用意しているときに、「津波が来るぞ」という近所の人の呼びかけですぐに父親と共に仕事着に着替えて浜（脇の田）の仕事場へ走って行った。

私の家は小型木造船を造る船大工であり、仕事場へ行くと第1波が来たのか、仕事草履ではベタベタで歩きにくい位に潮が上がっていた。仕事場の中には2～3日後に進水式をする漁船があったが、仕事場の中まで潮は入っていなかった。

浜を見れば常に何隻か係留されている漁船は、津波を察したのか沖へ出したらしく、1～2隻係留されている程度であった。潮はまるで川の流れというか、洪水とは異なる速さで渦を巻きながら引いていき、隣の小型船舶はロープが切れて転覆し流されていった。

仕事場に入り、大工道具の大切なものは約50m上の自宅に運ぶほか、進水式前の漁船にも積み込んだ。仕事場の広場には、漁船を造る材料が山積みであったので、杭を打ちロープで結んだ。

潮の引くのを眺めながら、漁師等3～4名が寄り添って焚き火をしながらそのこわい状況を話し合っていた。

潮の引き具合は、黒江湾がまるで池の樋を抜いた様に空っぽになってしまったくらいである。当時、漁船（いわし・しらす漁をする木船を2隻結っているもの）に漁師2人が乗っていたが、今の住友海南鋼管の堤防付近の湾の中で、一番深い「みご」というところに座ってしまった。その漁船から乗っていた2人の漁師が泳いで戻って来るのではなく、海の底を歩いて冷水了賢寺下の石垣まで歩いて来た。海の底は「ヘドロ」と聞いたことはあるが砂地で歩きやすかったと言っていた。漁師が海の底を歩いて来た距離は約300m～400m程度であるが、了賢寺下に着いたときには、潮は漁師の足元まで来ていた様に記憶している。

### 2. 津波の被害について

潮が引いてから小一時間経過した後、「潮がくるぞ」と皆が騒ぎ出した。

湾の中が空っぽの状況からどっと押し寄せて来るのだから、それは想像を絶するくらいすごいものである。黒江湾の津波は一律に押し寄せるのではなく、しばらくは海の深いところから潮が上がってきた。その時は大潮程度でさほど怖いと思わなかったが、潮位が上がるにつれて潮の勢いもものすごい。台風の潮とは違い、海の底から盛り上がり押し寄せてきた。

津波は黒江方面から日方方面へ押し寄せてきた。冷水地区（脇の田）ではまだ1mくらいの潮位であった。

私は父親に「先に逃げよしよ」と言ったが、潮が雁木（がんぎ）（船着場の階段状の構造物）に上ってきたので私も危険を感じ、すぐに逃げた。30m余り走ったところで、川から押し上がってきた潮が足のすねまでくると走ることが出来ず、



（川下さんが這い上がった裏山）

裏山へ這いながら登って逃げた。海が見えるところまで登って行き、逃げた2～



3人と潮の押し寄せの状況を見ていた。大人2人が川に落ち込み、50m余り押し流されたと言っていた。

しばらくすると、押し寄せの津波で湾内いっぱいになり、海は一瞬池の様にまたよく凧いだ海のように水平状態となった。あの空っぽになった湾内が潮がいっぱいになったなあと眺めていると、ドーンという腹に響くような音が鳴り、潮がどっと引き始めた。

潮が引く様子は半端なものではなく、想像を絶する勢いである。日方川では河口から流れ出る倉庫、タンス、家具、衣類、ドラム缶、人の乗ったまま流される釣船等、地獄絵そのものであった。この引き潮により私の仕事場も流失した。

第2波の潮が引く程度は海の底が見えるまでは引かず、磯の岩底が見える程度であった。また、第3波、第4波になるにつれ、徐々に弱まっていた。私の住んでいた冷水地区（脇の田）でも木の枝に衣類が引っかかっている、3間（1間は約1.8m）のものさおが届かなかったことから、相当な高さの津波が押し寄せたことが分かる。

### 3. 最後に

私は昭和21年の南海道地震のほか、戦時中の昭和19年12月7日に発生した東南海地震も



（当時の仕事場から黒江湾を眺める。湾内が空っぽになってしまったことを想像することはできない。）

愛知県岡崎市にて旧海軍甲種飛行予科練習生の期間中に体験した。昼間であったが、大きく長く揺れ兵舎も大半が傾斜した。また、昭和のチリ地震による津波も体験しており、何度も大きな地震や津波を体験した。だからこそ、地震・津波といえ、自分の体験を思い出して、心配になる。

津波は一律に押し寄せてくるのではなく、潮位何mと予測していても地形によりそれ以上の潮位となることを知ってほしい。まず、はやく避難することが大事であり、そのための教育指導を強くお願いしたい。

原稿提供：川下 崇 様

## トピックス 防災・きのくに東西南北

### 地域と県立田辺工業高等学校が連携した防災活動について

（田辺市）

田辺市において地域と県立田辺工業高等学校が連携した活動の事例を紹介します。

~~~~~

1. 地域と連携するために！

～地域との交流を深める～

和歌山県の南部にある田辺工業高等学校は田辺市のあけぼの地区に位置しています。

和歌山県の予想震度では、この地域は震度6以上の高い予想になっています。

平成22年1月末現在で、田辺市は人口82,144人、あけぼの地区は891世帯2001人で、70歳以上の高齢者は300名です。高齢者



（町内会との合同防災訓練の様子）

の多い地域は災害時に大きな人的被害が予想されます。このような状況で地域の高校生として、大きな災害にあった時、地域の役に立つことができないかと考えました。

それには、まず、地域の人たちとの交流を深めておくこと、そして、日頃のあいさつやコミュニケーションが大切と考え、町内会との連携事業をはじめました。

まず、地域清掃ボランティアを平成14年6月より始めました。

平成15年4月には、当時の校長先生は学校と

して、あけぼの町内会に入会されました。これは、よりお互いのつながりを深めるためです。

そして、プルタブ回収運動を平成15年6月より実施しました。

プルタブ回収運動は平成22年度をもって終了しますが、集まったプルタブは車イスに交換されるだけでなく、回収運動を進めることで、空き缶のポイ捨ても少なくなります。昨年までに、4台交換しましたが、800Kgものプルタブを大阪の業者に送る方法は、近くの運送業者の方がこの運動に賛同してくれて、無料で運んでくれます。いまでは、一般市民の方の協力も多く、1年に1台のペースで集まっています。



(車いす贈呈式)

他に、町内会の盆踊り大会や防犯パトロールにも参加し、学園祭には地域の方の作品を展示しています。平成16年10月に起こった新潟中越地震、平成19年に起こった新潟中越沖地震の際は募金活動を行いました。

また、ボランティア清掃を毎月一回、月末の金曜日を定例日に続けています。生徒会から全校生徒に声をかけ、100名~150名が参加します。

2. 町内会と合同の防災訓練

町内会との合同防災訓練を平成18年より地域の方が参加しやすいように、土曜日に行うこととし、始めました。

あけぼの町内会の方へ防災訓練の案内を890軒に配布します。



(応急手当・応急搬送訓練)



(テント設営訓練)

病院の方をお願いしている応急手当・応急搬送訓練です。

自衛隊の方にはテント設営やロープワークを教えてください。

消防署の方には消火訓練や煙体験をお願いしました。

町内会の高齢者や負傷者の方を、本校へ避難誘導します。

婦人会の方とは一緒に、炊き出し訓練を行いました。

敬老の日には、お祝いを兼ね、ハガキを出し、防災訓練への誘いをしています。



(避難誘導訓練)



(炊き出し訓練)

3. 高校生が出前授業

~幼稚園に出向いて園児と交流~

防災意識を幅広い世代に伝えるため、高校生が出前授業をしています。

平成20年度は、園児用の『防災クイズ』を実施しました。

平成21年度は、生徒で作詞をし、先生が作曲した『防災ソング：たいへんだ〜』を幼稚園で歌うという企画を実施しました。

以上が、田辺工業高校の取り組みです。



(幼稚園での出前授業 防災ソング：H21年度)

原稿提供：田辺工業高等学校 教諭 三谷 泰生 様

御坊青年会議所の防災活動

「みんなで学ぶ防災マップ」

～地震に津波に負けないゾ！～（御坊市）

御坊市において御坊青年会議所が小学生と一緒に実施した防災活動取材しましたので紹介します。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～

1. はじめに

私達御坊青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を理想とし、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。

この度、3月20日（土）に、「みんなで学ぶ防災マップ～地震や津波に負けないぞ!～」をテーマに、御坊、日高地方の小学生そして保護者、先生を対象に御坊市立体育館とその近辺で地震災害の恐ろしさを学び、地震についての知識を身につけ具体的な災害時の対応についてDIG（防災マップ）を用い対策をシミュレーションする事により、災害時に適切な対応をとれるよう机上訓練を行う事を目的として開催致しました。

2. 子供と一緒に行うDIGを計画した目的

近年、30年以内に東南海地震が発生する確率は60%～70%、南海地震が発生する確率は50～60%と言われ、県内でも自主防災活動をはじめ、各学校や主要施設の耐震補強等行われています。もしかすると、明日、今日、1分後に地震が起きるかも知れないと言われている時、老若男女問わず襲いかかる地震災害では、特にお年寄りや子供と言った人達が被害に遭い命を落とす可能性が高いとされています。

そこで、将来を担う子供達をもっと地震についての認識や知識を深め、そして、自分達に無い新しい発想で、家族、兄弟、友達と一緒に、実際に住んでいる場所で地震、災害に向き合いたいと思い、このDIGを計画致しました。

3. 活動内容

開催は3月20日（土）の13：00から16：45まで、御坊市立体育館で行いました。小学生60名、保護者を含め約90名の参加で、第1部として御坊市市民福祉部市民課生活安全・防災対策室長の大川秀樹氏に地震について説明して頂きました。第2部として御坊市消防本部の方に



（防災マップ作成の様子）

学校で積極的に取り組んでこられた元小学校教諭の椎崎ひろ子氏に防災マップ作成のポイントを小学生に分かりやすく説明して頂きました。そして、火災時の煙体験をした後、実際に町を歩いて危険な箇所等をチェックしました。90名を6班に分け御坊市立体育館の周辺を3ルートで30分程度探索しました。そして、町歩きでチェックしたことをもとに、みんなでDIG（防災マップ）を作成し、最後に発表会で各班に地図の説明をして貰いました。完成した防災マップは、後日、御坊市役所ロビーにて一週間展示して頂きました。子供たちには、再度、家の中や通学路で実際



（作成した防災マップの一例）

に見て危険な場所や災害時をシミュレーションして気付いて頂ける様に、県から支給して頂いた子供向けのパンフレットやハ

ザードマップを付けて持ち帰って頂きました。

4. 最後に

大人と子供では、見る目線や発想、感受性が違い、私達大人が気付かされる点も沢山ありました。そして、DIGを通して図に描き発表する事で意識を共有出来ました。（百聞は一見にしかず）とありますが、実際に町を歩いて危険な場所は沢山ある事に気づき、家のブロック壁や普段通勤通学している道も違った目線、災害になった時のことを思い描きながら歩く事によって普段歩いている道が違う景色に成る事を感じ、その感覚を忘れないで欲しいと思いました。未来ある子供達に少しでも役に立ち、その時にこの事を思い出して生き残って欲しいと願います。

原稿提供：御坊青年会議所 谷本 聖和 様

那智勝浦町自主防災組織連絡協議会の活動について

那智勝浦町自主防災組織連絡協議会（以下「協議会」と言います。）は、「自分たちの町は自分たちで守る」をスローガンに町の防災力強化を目指して取り組みを行っています。その活動の一環として今年6月25日に実施されました「防災視察研修」についてご紹介します。

~~~~~

### 1. 研修について

那智勝浦町は南海トラフを震源に周期的（100年～150年）に起こるとされる東南海地震で、過去幾度となく大きな被害を受けてきました。そして今、「いつ起きても不思議でない」と言われている東海地震と「近い将来に起こる」と言われる東南海・南海地震の3つの大地震が同時に起こる危険性も危惧されています。

私たちの町は紀伊半島の南東側に位置していることから、今年の視察研修先は東南海地震への備えで同じ境遇にある三重県にスポットを当て、中でも地震・津波対策に積極的に取り組まれている尾鷲市自主防災組織との意見交換会と尾鷲市防災センターの施設見学を行いました。

### 2. 研修の内容

平成17年9月に協議会が立ち上がってから、今年で4回目の視察研修でしたが、協議会に所属する33自主防災組織から20組織33名の協議会委員が参加しました。

尾鷲市役所に着いてまず目に入ったのが、市役所と防災センターに掲げている「津波は逃げるが勝ち！5分で逃げれば被災者ゼロ」の横断幕です。津波への関心の高さを感じるとともに、その言葉は災害対策全般に当てはまっていると感じました。災害を未然に防ぐには、一人ひとりが常に防災意識を持って、災害が発生しそうな危険を感じたときは、まず安全な場所に避難することが大事です。

さて、研修は防災センターで尾鷲市自主防災組織連絡協議会の浜田



（尾鷲市役所の横断幕）



（那智勝浦町の皆さん）



（意見交換会の様子）

会長始め4人の自主防災組織会長にお越しただいて意見交換会を行いました。尾鷲市の自主防災組織は区、自治会単位で組織されていて、今年6月1日現在77組織（組織率96.76%）が立ち上がっているとのことでした。意見交換会では浜田会長から「災害が発生した時に災害時要援護者をどうするかが問題になっている。」との提言があり、この課題について話し合いを行いました。

まず那智勝浦町からお話したのは、災害時要援護者登録制度への取組みについてです。昨年7月にスタートさせたこの制度ですが、今年2月には自主防災組織連絡協議会、民生児童委員協議会、那智勝浦町の3つの団体で応援協定を結び、町内の要援護者登録制度の啓発と情報収集に力を入れていることをお話ししました。

続いて尾鷲市の取組みを聞かせてもらいましたが、私になるほどと思ったのが、小学生のための「津波避難の家」を指定していることです。子どもたちの安全をまず確保して、その家の人と一緒に避難する。正に町を上げての取り組みだと思いました。また、各地区で強力な率先避難者を決めておくことも大事で、率先避難者が引っ張れば必ずみんながついて避難するであろうと話されていました。

この話し合いでは、尾鷲市の自主防災組織が私たちよりも、より具体的な津波避難に取り組まれているように感じました。

### 3. 最後に

尾鷲市では最近、津波を警戒して山側に家を建てる人が多いようですが、近年の集中豪雨で土砂災害が発生し、大きな被害が出たそうです。

災害の発生する危険性で同じ境遇にある町として、今回の研修で話し合ったことを参考に再度地域ごとの危険性の拾い出しを行い、また自主防災組織間の連携を強めていくことで防災力の向上に努めていきたいと思っております。

原稿提供：那智勝浦町自主防災組織連絡協議会 会長 山東 寛 様



## 「紀の国防災人づくり塾」受講者を募集しています！

地域の自主防災組織や企業等の組織などで、防災の中心的な担い手となる地域防災リーダーを育成するため、防災に関する知識、技術を学ぶ講座を開設します。

自主防災組織で活動されている方、企業等の組織で防災に携わる方、これから地域で活動したいと考えている方、これからリーダーになろうと考えている方など、ぜひご応募ください。

なお、本講座修了者には、「NPO法人日本防災士機構」が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格が付与されますので、ぜひ防災士資格取得試験の受験についてもお考え下さい。

### (1) 開催日時・場所

| 会場   | 開催場所                                        | 開催日                                | 時間                | 備考                    |
|------|---------------------------------------------|------------------------------------|-------------------|-----------------------|
| 和歌山市 | 和歌山県庁南別館<br>3階防災対策室<br>(和歌山市湊通丁<br>北2丁目2-1) | 8/22、 9/26<br>10/17、 11/14<br>12/5 | 10時<br>～<br>16時前後 | 日によって終了時間<br>が多少前後します |

※全て日曜日開催。

※講座最終日の閉会式終了後に防災士資格取得試験があります。(受験希望者のみ)

### (2) 受講者の募集

- ・募集期間 平成22年7月5日(月)～平成22年7月23日(金)
- ・募集対象 和歌山県内に在住、在勤、在学の16歳以上で全講座出席可能な方
- ・受講料 無料(ただし、防災士の資格取得に要する経費は各自負担)
- ・募集人員 100名。応募者多数の場合は、申し込み先着順とします。
- ・申込方法 受講申込書に必要事項を記入し、郵送、FAX又はe-mailで和歌山県危機管理局総合防災課まで申し込みをしてください。  
また、個人情報については、適正に取り扱い本来の目的以外には使用しません。
- ・受講決定 申込者あて当課より連絡します。
- ・申込先 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 和歌山県危機管理局総合防災課  
FAX 073-422-7652 e-mail [e0114001@pref.wakayama.lg.jp](mailto:e0114001@pref.wakayama.lg.jp)
- ・問い合わせ先 和歌山県危機管理局総合防災課防災企画班 TEL 073-441-2271
- ・受講申込書や募集案内について  
募集案内(受講申込書)や講座内容等については、市町村、各振興局、県庁総合防災課に置いています。  
なお、県庁総合防災課ホームページにも掲載しておりますのでご利用下さい。

## 防災わかやまメール配信サービス ～災害に備えて、メール配信サービスに登録しよう！～

気象情報や被害情報、その他緊急情報などを電子メールで配信するサービスです。

警報・注意報 土砂災害警戒情報 台風情報 竜巻注意情報 地震情報 津波情報 雨量情報 河川水位情報 ダム放流情報 避難発令情報

### ■登録の流れ

#### 1.空メール送信

[[regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp](mailto:regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp)]

上記アドレスにそのままメールを送信してください。(件名・本文は不要)

右のQRコードを携帯電話で読み込んでメールを送信することも可能です。



#### 2.返信メールが届きます

登録用URLが記載されたメールが返信されます。



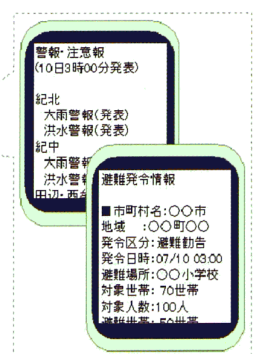
#### 3.登録

登録用URLにインターネット経由でアクセスし、情報を登録します。



#### 4.登録完了

登録後に登録完了通知が届けば登録は完了です。

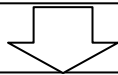


※登録を行う前に[[bousai.pref.wakayama.lg.jp](mailto:bousai.pref.wakayama.lg.jp)]ドメインからのメールを受信できるように設定してください。  
設定変更については、各プロバイダーにお問い合わせください。

## 家具の転倒防止講習会を実施しています！

大きな地震が発生すると家具は凶器と化します。家具や家電などの正しい固定方法や、ガラスの飛散防止方法の講習会を行っています。

- ・県内在住、通勤通学しているグループで申し込んでください。
- ・日時は原則として、ご希望に応じます。  
(土、日、祝日、夜間可)
- ・ご希望の会場にお伺いします。  
(講師の派遣や、配付資料等の費用は当方で負担します。ただし、会場の手配やそれに係る費用については申込者の負担となります)
- ・お気軽にお問い合わせください。



### 2つのコースより選択します

- ・ベーシックコース { 15名以上  
(所要時間：約1時間30分) **講義形式**(実習なし)
- ・エキスパートコース { 10名以内  
(所要時間：約3時間) **実習あり**

申込先  
熊野小型運送株式会社  
電話：073-428-3152

問い合わせ先  
和歌山県危機管理局総合防災課防災企画班  
電話：073-441-2276



(ベーシックコース 講義の様子)



(エキスパートコース  
(ガラスの飛散防止フィルム貼り)



(エキスパートコース  
(トラック上での家具の固定実習)

## 活動事例募集中！(地震・津波・洪水等の過去の災害の体験談も募集しています！)

地域で防災活動に取り組まれている皆様の活動事例を本会報誌で紹介していきたいと考えています。また、昭和の南海地震などの体験談も語り継いでいきたいと考えています。つきましては、活動事例等をご紹介いただける方がございましたらメール、FAX、郵送にて下記までご送付願います。

なお、紙面の都合により、ご提供いただいた方すべての原稿を掲載できない場合や原稿を修正させていただく場合もございますが予めご了承ください。字数等については、800～1200字程度でご検討いただければ幸いです。また、活動の写真もご提供いただけましたら、原稿とともに掲載したいと考えています。

### 記

- 1 提出先 和歌山県自主防災組織情報連絡会 事務局 (和歌山県危機管理局総合防災課内)
- 2 提出方法 E-mail: [e0114001@pref.wakayama.lg.jp](mailto:e0114001@pref.wakayama.lg.jp) FAX: 073-422-7652  
郵送: 〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1 和歌山県庁危機管理局総合防災課 行き

**\*活動事例を会報誌に掲載させていただく場合に、県総合防災課からご連絡させていただく場合もございますので、住所、氏名、電話番号を必ずご記入のうえ、原稿をご提供いただきますようお願いいたします。**

**【お問い合わせ先】和歌山県危機管理局総合防災課 防災企画班 TEL: 073-441-2271**

この会報誌は和歌山県ホームページにも掲載されています。(カラー版)

URL: <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/jisyubou/jisyubou.html>